

青森県立高等学校教育改革推進計画に関する
地区意見交換会（中南）における主な意見

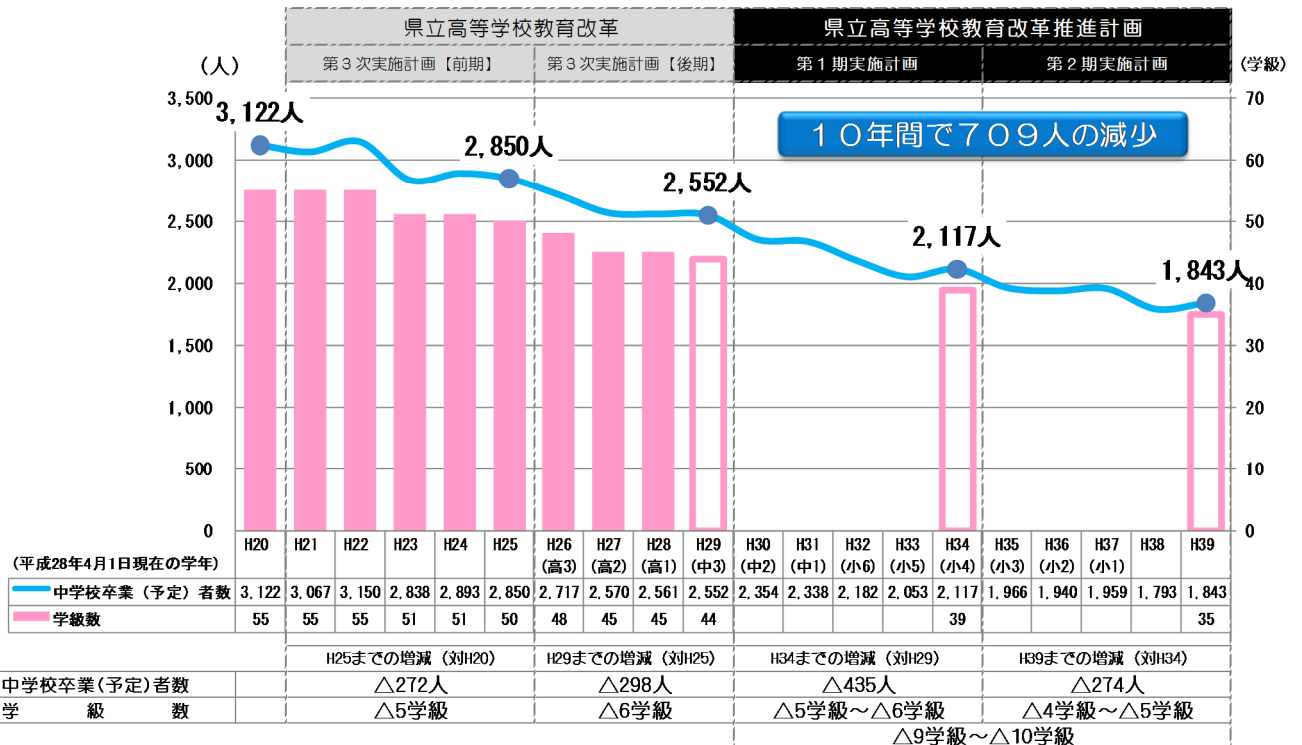
平成29年2月13日

目次

1	中南地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み.....	1
2	全日制課程の学校規模・配置に関する意見.....	2
	(1) 重点校、拠点校について.....	2
	(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション.....	3
	ア 平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合.....	3
	イ 中南地区に農業科、工業科、商業科の拠点校を配置する場合.....	5
	ウ 黒石高校と黒石商業高校を統合して新設校を配置する場合.....	7
	(3) その他の意見.....	9
3	定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見.....	11
	【参考1】委員名簿（中南地区）.....	12
	【参考2】オブザーバー名簿（中南地区）.....	13
	【参考3】地区意見交換会の開催状況（中南地区）.....	13

1 中南地区の中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。
 平成29年度以降は、平成28年5月1日現在の児童生徒数をもとに県教育庁高等学校教育改革推進室において推計。
 ※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。
 平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流入等入等の状況を勘案し、算出。



			第1期実施計画	第2期実施計画
試案における候補校			H29	H39
重点校	弘前高校	6学級	△5学級 (対H29)	△9学級 (対H29)
拠点校	弘前工業高校	7学級		
重点校等の合計		13学級		
連携校	弘前実業高校	7学級		
	弘前中央高校	6学級		
	弘前南高校	6学級		
	黒石高校	4学級		
	黒石商業高校	4学級		
連携校の合計		31学級		
中南地区全体の合計				

2 全日制課程の学校規模・配置に関する意見

(1) 重点校、拠点校について

① 全般

- 重点校、拠点校の候補校については、目的・観点から見ても、適当であると受け止めている。
- 重点校、拠点校の候補校については、全県的なバランスが考慮されており、おおむね適当なものであると感じている。
- 配置については適当であると受け止めているが、実施に当たっては、重点校、拠点校の選定理由や連携校との具体的な取組等について、自治体や学校等を通して、改めて保護者や生徒、地域に対しても説明が必要であると思う。
- 重点校、拠点校の充実が優先されると、連携校の質的低下が懸念される。
- 重点校、拠点校だけが存続し、連携校は存続しないという誤解を与える危険性があることから、十分に説明する必要がある。

② 重点校

- 重点校の教員は生徒に連携校の生徒以上の学力を付けてトップクラスの大学への進学率を高めていくべきである。重点校に対する世間一般の期待に応えることも大事である。
- 重点校は各地区に設置して当然である。
- 重点校は、平成39年度まで6学級を維持できるのか。学力が低下するのではないかと危惧している。
- 重点校の教職員に負荷が掛かるのではないかと心配している。

③ 拠点校

- 工業高校の生徒が大学へ進学を希望する場合、進学した大学でも専門性を十分に活かすことができるような技術と能力を育ててほしい。そのことが拠点校としての使命ではないか。
- 拠点校については、地域間で産業が違うので、中南地区に農業科、商業科の拠点校があった方がよい。
- 地区によって産業構造が異なるので、拠点校は各地区に設置した方がよい。
- 地区によって産業構造が異なることを踏まえれば、あえて拠点校を設置する必要はないのではないか。

(2) 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

ア 平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29	H34	H39	H39
重点校	弘前 6学級		弘前 6学級		弘前 6学級
拠点校	弘前工業 7学級		弘前工業 ○学級		弘前工業 ○学級
連携校	弘前中央 6学級		弘前中央 ○学級		弘前中央 ○学級
	弘前南 6学級		弘前南 ○学級		弘前南 ○学級
	黒石 普通科3学級 看護科1学級 4学級		黒石 普通科○学級 看護科○学級 ○学級		黒石 普通科○学級 看護科○学級 ○学級
	柏木農業 4学級	△5学級 →	柏木農業 ○学級	△4学級 →	柏木農業 ○学級
	弘前実業 農業科1学級 商業科3学級 家庭科2学級 スポ科1学級 7学級		弘前実業 農業科○学級 商業科○学級 家庭科○学級 スポ科○学級 ○学級		弘前実業 農業科○学級 商業科○学級 家庭科○学級 スポ科○学級 ○学級
	黒石商業 4学級		黒石商業 ○学級		黒石商業 ○学級
合計	44学級	△5学級 →	39学級	△4学級 →	35学級

① シミュレーションの基となった意見

- 学校規模があれば良いが、小規模校であっても学校を配置した方が良い。
- 学校規模の標準は満たさなくても、全ての学校を配置した方が良いと考える。

② 期待される効果等

- 高校がなくなると地域の元気がなくなり、人が集まらなくなってしまうので、地域づくりとともに高校の配置も考えれば良いのではないかと。
- 近くの高校が存続し交通費が掛からないのは保護者として助かる。
- 期待される効果は特になし。

③ 更に検討を要する課題等

- 小規模校になればなるほど、よりきめ細かな指導ができるというものの、より多くの生徒たちと関わり、様々な個性や多様な価値観に触れることや自立に向けて集団生活を通したいろいろな経験を積み重ねること等が難しくなっていくと思う。充実した教育環境のためにはお互いに切磋琢磨するという意味においても、統廃合により基本となる学校規模である1学年4学級以上での学校配置を進めてもらいたい。
- ある程度思い切って高校を少なくして、各学校の生徒数を増やすことが良い方向だと感じている。そうしなければ競争意識が生まれないと感じる。
- 全ての高校をバランス良く配置すると、各校が小規模化してしまい、生徒の成長に向けた取組や部活動に無理が生じる。
- 複数校の連合チームではなく、それぞれの学校で部活動に取り組めるようにしてもらいたい。
- 現実的に、今後生徒数が減少傾向にあることを考えれば、思い切った決断も必要と考える。将来の人たちに負の財産を残さぬよう、今の私たちができる限りの判断と決断をすべき時期に来ているのかもしれない。
- 生徒数が減少する中で全ての学校を配置することには無理があり、異なる学科を有する高校同士の統合を検討していく必要がある。

イ 中南地区に農業科、工業科、商業科の拠点校を配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29	H34	H39	H39
重点校	弘前 6学級		弘前 6学級		弘前 6学級
拠点校	柏木農業 4学級		柏木農業 4学級		柏木農業 4学級
	黒石商業 4学級		黒石商業 4学級		黒石商業 4学級
連携校	弘前工業 7学級		弘前工業 ○学級		弘前工業 ○学級
	弘前中央 6学級		弘前中央 ○学級		弘前中央 ○学級
	弘前南 6学級	△5学級 →	弘前南 ○学級	△4学級 →	弘前南 ○学級
	黒石 普通科3学級 看護科1学級 4学級		黒石 普通科○学級 看護科○学級 ○学級		黒石 普通科○学級 看護科○学級 ○学級
	弘前実業 農業科1学級 商業科3学級 家庭科2学級 スポ科1学級 7学級		弘前実業 農業科○学級 商業科○学級 家庭科○学級 スポ科○学級 ○学級		弘前実業 農業科○学級 商業科○学級 家庭科○学級 スポ科○学級 ○学級
合計	44学級	△5学級 →	39学級	△4学級 →	35学級

① シミュレーションの基となった意見

- 地区によって産業構造が異なるので、拠点校は各地区に設置した方が良い。
- 中南地区に農業科、商業科の拠点校を設けても良いと思う。

② 期待される効果等

- 地区内に施設・設備の充実した拠点校があれば学習の幅が広がる。

③ 更に検討を要する課題等

- 拠点校を複数指定した場合、学級減を行う対象校の範囲が狭まり、結果として普通科の学校が少ない中南地区では、更に普通科の学校に影響が出る。
- 今の状況で拠点校を複数設置することは、あまりにも無理があり、無謀と考えざるを得ない。
商業高校がなくなると、町の商業が活性化しない、停滞してしまうという論は本末転倒のような気がする。高校はあくまで教育の場であり、その教育の力をいかに活かすかということは、商業活性化の一部に過ぎない。町の商業活性化のために、高校がなくてはならないというよりも、町での生産性に関する自助努力そのものを第一に考えるべきである。
- 中南地区だけではなく、他地区でも拠点校を複数配置することと考えると、施設・設備の充実が図れるのか。
- 地域産業の担い手育成からも効果があるので、拠点校の設置とははならなくても、農業科、工業科、商業科を学ぶことができる環境は必要と考える。

ウ 黒石高校と黒石商業高校を統合して新設校を配置する場合

	第3次実施計画	青森県立高等学校教育改革推進計画			
		第1期実施計画		第2期実施計画	
		H29	H34	H39	H39
重点校	弘前 6学級		弘前 6学級		弘前 6学級
	弘前工業 7学級		弘前工業 ○学級		弘前工業 ○学級
	弘前中央 6学級		弘前中央 ○学級		弘前中央 ○学級
拠点校	弘前南 6学級	Δ2学級 →	弘前南 ○学級		弘前南 ○学級
	柏木農業 4学級		柏木農業 ○学級		柏木農業 ○学級
	弘前実業 農業科1学級 商業科3学級 家庭科2学級 スポ科1学級 7学級		弘前実業 農業科○学級 商業科○学級 家庭科○学級 スポ科○学級 ○学級	Δ4学級 →	弘前実業 農業科○学級 商業科○学級 家庭科○学級 スポ科○学級 ○学級
連携校	黒石 普通科3学級 看護科1学級 4学級	Δ3学級 →	新設校 普通科3学級 看護科1学級		新設校 普通科○学級 看護科○学級
	黒石商業 4学級		商業科1学級 5学級		商業科○学級 ○学級
	合計	44学級	Δ5学級 →	39学級	Δ4学級 →

① シミュレーションの基となった意見

- 黒石高校と黒石商業高校のこれまでの教育活動の実績を見ると、両校の教育活動を生かしていきたいという願いから、どちらかをなくするというのではなく、他県の例でもあったように、普通科と専門学科の双方の機能を持った総合的な高校として、黒石高校と黒石商業高校の統合を提案したい。
- 統廃合もあっても良いと思う。また、一つの校舎に2つの学校が同居することがあっても良いと思う。

② 期待される効果等

- 黒石高校と黒石商業高校を統合することで教育活動を充実させ、地域の活性化につなげていけば良いと思う。
- 新設校では、看護科、情報デザイン科に特色を出し、魅力あるものとするれば、注目も集まるだろう。
- 黒石高校に黒石商業高校の機能を付加することは非常に効果があると思う。特に情報デザイン科には、弘前市内からも進学すると思う。効果的に統合した総合高校として新設することは、非常に良いことだと思う。
- 黒石高校と黒石商業高校の統合により、切磋琢磨しながら、目的意識を持って教育活動ができると思う。
- 子どもたちの多様な進路希望に応えることのできる学校配置を目指す意味から、黒石高校と黒石商業高校の統合は良いことだと思う。
- 黒石高校と黒石商業高校が統合し、各学科が連携して新しい学校を作り上げていくことが望ましいと思う。
- 現状として、黒石高校及び黒石商業高校の両校の学級数減少という方策だけでは、両校とも今後の定員確保が厳しい状況が続くと考えられる。黒石高校、黒石商業高校という2つの伝統校の統合が実現すると、お互いが刺激し合える環境が新たに構築され、生徒一人一人の個性や才能を更に伸ばしていけるものとする。

③ 更に検討を要する課題等

- 黒石高校、黒石商業高校ともに存続してほしいというのが市民の感情だと思うが、生徒数の減少を考えるとやむを得ない。黒石市内の中学校卒業生数が、10年間で約100人減少すること等について、中学校等に丁寧に説明すれば、黒石市民も理解できるのではないかと。
- 統合校における商業科の学級数を増やしてほしい。
- 統合校の学校規模は6学級とし、弘前市内の高校で3学級の削減を行うのが良いのではないかと。
- 第3次実施計画の状況や中学校卒業予定者数を勘案すると黒石市内で3学級減することも仕方ないと思う。

④ その他

- 設置場所については、通学面の利便性を考慮すると、黒石駅に近い、黒石高校の校舎への設置をベースに考えていくことが望ましい。
- 看護科、情報デザイン科は近隣の高校にはない特色ある学科なので、是非残してほしい。
- 黒石高校と黒石商業高校の統合については、どの学科がどれくらいの入試倍率となるかを見極めながら学科構成を検討することが大切である。併せて、弘前市内普通高校への進学状況のバランスについても配慮する必要がある。
- いずれは、弘前市内でも、普通高校と弘前工業高校の統合、普通高校と弘前実業高校の統合、弘前工業高校と弘前実業高校の統合などにより、学びの機会の確保について考える必要がある。
- 弘前市内でも、黒石高校と黒石商業高校のような統合があっても良いのではないかと。

(3) その他の意見

(学校規模・配置)

- 昭和40年代と比較して1万人以上生徒数が減少しているにもかかわらず、学校数は当時よりも多い。将来的に生徒数が減少する状況から判断して、私立高校とのバランスも考慮し、中南地区の県立高校は6校程度で良い。
- 中南地区は比較的公共交通機関の利便性が良く、進路の選択肢も確保されている。今後、生徒数が減っていく中であっても学校配置には配慮してもらいたい。居住地域によって高校へ通学することができない生徒が生じないような学校配置を検討してもらいたい。
- 弘前南高校を廃止することを検討してはどうか。弘前南高校は元々中学校卒業者の増加に対応するために設置された学校であり、中学校卒業者の減少が続くことが必至であることから、廃止することが妥当と考えることができる。他校を学級減する必要がなくなる。弘前南高校の役割は終わったと言えるのではないか。
- 弘前南高校は、スーパーサイエンスハイスクール等の魅力的な教育活動を実施していることもあり、同校を希望する生徒も多い。弘前市内の普通科が少ないこともあるので、普通科については、これまで同様の割合で存続してもらいたい。

(学科等)

- 中南地区は普通科が少ないので、普通科は減らしてほしくない。
- 中南地区は普通科の割合が低いこと、中学校卒業生数が10年後には700人以上減少することを考えると、異なる学科の統合も視野に入れて考えざるを得ない。
- 職業の多様化、生徒の興味・関心の多様化のため、生徒のニーズにあった学科等を選択できる配置をお願いしたい。
- ある程度様々な学科を有する学校を設置せざるを得ないと感じる。
- 入学後に進路変更できるよう、様々な学科を有する高校が地区に設置されていても良いのではないか。
- 弘前市内の高校に観光に関わる学科・コースを設けてもらいたい。弘前大学でも人文社会科学部特設講義として、観光に関する「JR東日本寄附講義」を行っている。高校卒業後もそのような機会があることから、オール弘前体制で取り組んでいきたい。
- 看護科や情報デザイン科のような特色ある学科が弘前市内にもあって良いのではないか。
- 農業科については、弘前実業高校農業経営科を柏木農業高校に組み込み、一本化することについて検討する必要がある。
- 農業科については、弘前実業高校農業経営科の機能を柏木農業高校に移行し、より充実した教育活動を目指してはどうか。一方、弘前実業高校については、商業に関する学科、スポーツ科学科、更には家庭科学科を中核とした特色ある高校としてはどうか。
- 弘前実業高校の農業経営科は、学校経営上は必要だと考える。充実した教育のためには1学級では困難かもしれないが、1学級規模の地域校の例もあるので取り組んでいけるのではないか。

(生徒の通学)

- 通学に関するコストや安全について関心がある。オール青森ということで考えていくのであれば、バス会社等の産業界も一緒に意見交換できれば、具体的な検討につながるのではないか。
- 路線バスもあるが、複数の高校が協力して、スクールバスを出し、弘前駅までの通学に自由に活用できるシステム等があっても良いのではないか。
- 遠い地区から通っている生徒は公共交通機関を使用すれば交通費を無料にすることなどを考えてもらいたい。
- 統合の際には、通学にかかる補助等により、保護者の負担を軽減することを同時に考えなければならない。
- 公共交通機関を利用して通学する生徒には交通費を補助してほしい。
- 県で通学費用を補助すべきとの主張があるが、公共交通機関と協議した上で、各市町村が取り組むべきことであるとする。

(その他)

- 将来、高校に入学することとなる、現在就学前の子どもたちのためにどうしたら良いのかを前提にして考えていく必要がある。
- 1学級の定員を35人としてほしい。
- アクティブ・ラーニング実施の成果をあげるのであれば、1学級40人では多いのではないか。
- 中学校卒業生数はゆっくり坂を下りるように減っていくのに対し、高校は階段を下りるように40人単位で定員が減っていくというのはいかがなものか。
- 県立高校と私立高校が共存できる募集人員のバランスが重要なポイントではないか。
- 最近、私立高校を第一希望にしている生徒が明らかに増えている。これが何を意味しているのか考える必要がある。
- 弘前市内にある私立高校4校との調整抜きに、県立高校教育改革は進まないと思う。
- これまで教員が児童生徒に行っていた様々な教育指導が、教員数の減によりできないということがあるので、教員の配置については手厚い配慮をお願いしたい。
- 計画そのものが、生徒数減少に伴う行政の効率化を前提としており、その枠に当てはめるために様々な検討を進めているという感じがしてならない。将来の青森県の戦略を成し遂げるために教育として、どのような人づくりをしていくのかという観点からの検討が足りないのではないか。

3 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

- 弘前工業高校の定時制課程を普通科に転換することができないか検討してほしい。
- 尾上総合高校については、不登校等の様々な課題を抱える生徒に学び直しの機会を与えていただき大変感謝している。一方で、Ⅲ部への入学者が極端に少ないという状況にあり、弘前市内で夜間に学ぶことができる普通科の学校もしくはシステム（サテライト教室等）を検討していただきたい。
- 夜間定時制課程に進学する生徒数、交通費、通学時間、生徒の安全等を考えれば、工業科ではない夜間定時制課程は弘前市内にあるべきである。尾上総合高校の昼間部については、現状のままで良いと考える。
- 定時制課程・通信制課程には、現在は働きながら学ぶ生徒はもちろん、様々な課題を抱えている生徒も通っており、広く学びの機会を提供しているところである。基本方針には現在の配置を基本とするとあるので、これまでどおりの配置をお願いしたい。
- 尾上総合高校のⅢ部に進学する生徒がいらないという実態であれば募集停止も理解できるが、まだ入学者もあるようなので、存続を考えてもらいたい。
- 尾上総合高校は、働きながら学ぶ生徒のみならず、様々な事情を抱える生徒、とりわけ不登校傾向の生徒にも、広く学びの機会を提供するなど、定時制課程・通信制課程を有する学校として欠かせない学校であると考えている。

【参考1】委員名簿（中南地区）

（敬称略）

区分	所属等	委員名	備考
市町村教育委員会	弘前市教育委員会 教育長	佐々木 健	
	黒石市教育委員会 教育長	阿保 淳士	平成28年11月20日まで
	黒石市教育委員会 教育長	山内 孝行	平成28年11月21日から
	平川市教育委員会 教育長	柴田 正人	
	西目屋村教育委員会 教育長	長利 允弘	
	藤崎町教育委員会 教育長	武田 登	
	大鱒町教育委員会 教育長	木田 専一	
	田舎館村教育委員会 教育長	金枝 尚明	
PTA	弘前市連合PTA 副会長 （弘前市立和徳小学校PTA 会長）	吉原 則幸	
	黒石市連合PTA 監事 （黒石市立牡丹平小学校PTA 会長）	柿崎 博	
	平川市連合PTA 会長 （平川市立松崎小学校PTA 会長）	桑田 純也	
	中津軽郡連合PTA 会長 （西目屋村立西目屋小学校PTA 会長）	須藤 君男	
	南津軽郡連合PTA 会長 （田舎館村立田舎館中学校PTA 会長）	鹿内 久人	
	青森県高等学校PTA連合会 中南地区協議会 会長 （学校法人弘前東高等学校PTA 会長）	新谷 貴城	
産業界	弘前商工会議所青年部 直前会長	一戸 勝美	
小中学校長会	弘前地区小学校長会 会長 （弘前市立福村小学校 校長）	齋藤 治	
	南地方小学校長会 会長 （平川市立小和森小学校 校長）	安藤 智史	
	弘前市中学校長会 会長 （弘前市立第三中学校 校長）	荒谷 一昭	
	南地方中学校長会 副会長 （黒石市立黒石中学校 校長）	神 洋文	
	元県立弘前高等学校 校長	古山 哲司	進行役

【参考2】オブザーバー名簿（中南地区）

（敬称略）

所 属 等	オブザーバー名	備 考
県立弘前高等学校 校長	奈 良 昌 孝	
県立弘前中央高等学校 校長	三 上 聡	
県立弘前南高等学校 校長	三 上 隆 裕	
県立岩木高等学校 校長	飛 内 文 代	
県立黒石高等学校 校長	松 野 洋 祐	
県立柏木農業高等学校 校長	西 館 実	
県立弘前工業高等学校 校長	高 橋 和 雄	
県立弘前実業高等学校 校長	笹 浩一郎	
県立黒石商業高等学校 校長	永 川 信 子	
県立尾上総合高等学校 校長	佐 藤 昭 雄	
県立弘前聾学校 校長	相 馬 純 子	
県立弘前第一養護学校 校長	梅 村 博 之	
県立弘前第二養護学校 校長	乗 田 朋 宏	
県立黒石養護学校 校長	泉 澤 明 徳	

【参考3】地区意見交換会の開催状況（中南地区）

回	年月日	内容
1	平成28年 9月15日	○学校規模・配置に関する意見発表
2	平成28年11月21日	○第1回地区意見交換会での意見等を踏まえた学校配置シミュレーションに関する意見交換
3	平成29年 1月30日	○地区意見交換会委員の意見に基づく学校配置シミュレーションにおいて想定される効果・課題等に関する意見交換